

ふくいじょうあと 6. 福井城跡

(えちぜん鉄道地点・15-3~6)

所在地：福井市大手2丁目・日之出1丁目
・宝永1丁目

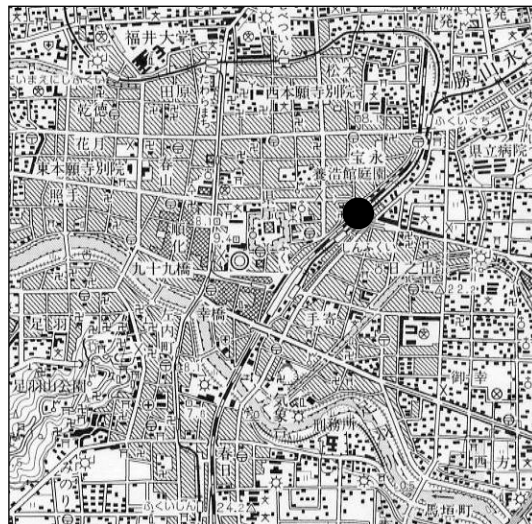
調査原因：福井駅付近連続立体交差事業

調査期間：平成28年4月1日～5月31日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：5,180 m² (表面積)

時代：古墳・奈良・平安時代、中世、近世



位置図 (S=1/50,000)

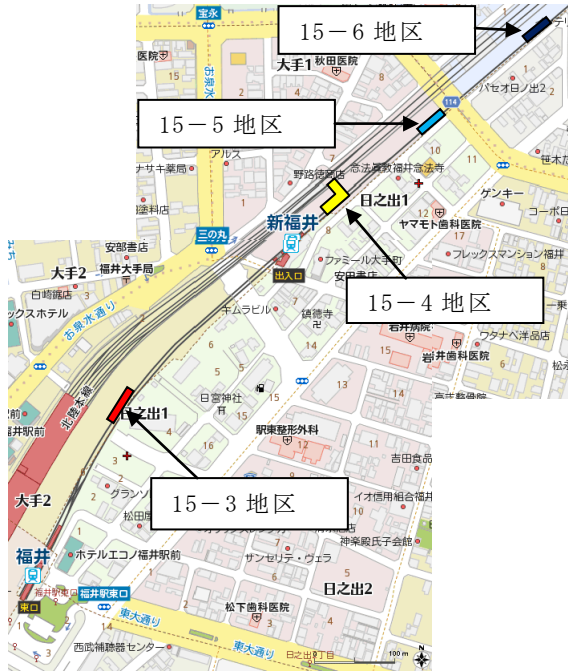
調査の概要 天正3年(1575)、越前の一向一揆を平定した織田信長は、柴田勝家に越前の支配を任せ、勝家は北庄(現在の福井市街)に城を築きます。これが北庄城です。その後、城主が数年ごとに入れ替わりますが、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いの後、家康の次男結城秀康が越前一国を支配することとなり、北庄に新たな城を築きました。これが、現在も県庁周辺に本丸石垣や内堀が残る福井城です。

平成28年度から、福井駅付近連続立体交差事業に伴い、えちぜん鉄道の高架橋建設地点の調査を行いました。調査地は、福井城本丸の東方に位置し、「中之馬場」「元割場」等と呼ばれた武家屋敷が立ち並ぶ地域にあたります。調査区は15-3~6の4地区に分かれています。4月末で調査を終えた15-3・5地区の概要は昨年度の資料で報告したため、ここでは15-4・6地区の未報告部分について紹介します。

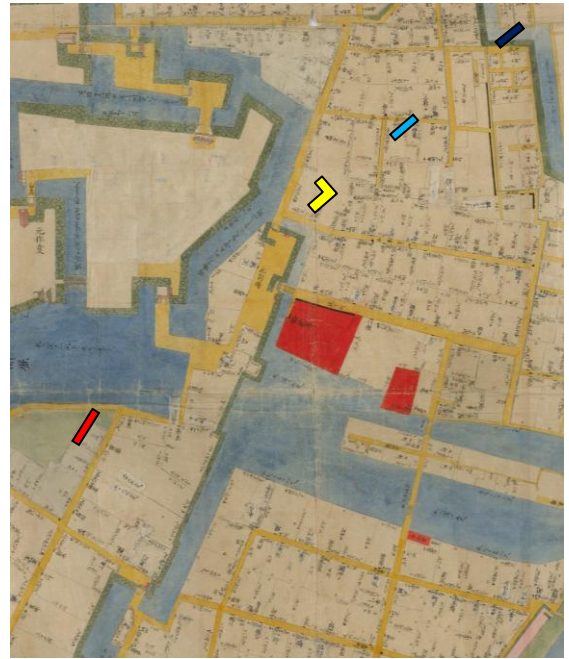
15-4地区の調査 今年度の調査地は、福井城下絵図によると近世を通じて一つの武家屋敷地内に入っています。住人は17世紀初めが「石川対馬」、17世紀後半は「石川宗左衛門」、18世紀以降は「酒井十之丞」と入れ替わっていました。

調査の結果、奈良・平安時代から近世にかけての遺構を確認しました。近世の遺構は、井戸2基、水路1条、柱穴、土坑がありました。井戸には板石組みの井戸枠を持つものと、割石組みに井戸枠を持つものがありました。水路は笏谷石の石樋に板石で蓋をする構造でした。16世紀後葉の北庄城期の遺構には、井戸10基、土坑がありました。井戸は割石組みのもの1基の他は、すべて素掘りのものでした。奈良・平安時代の遺構は、溝6条を確認しました。

15-6地区の調査 今年度の調査地は、福井城下絵図によると城郭の最も外側の堀と土居にあたります。検出した堀は東西方向に走り、幅約15mで現地表面から約3.5mの深さがありました。城下の外側となる北の法面には、杭等を打ち込んだ護岸施設と、笏谷石を2~3段積んだ石垣がありました。堀の南では土居の基礎部分のみ確認でき、大部分は削平されていました。堀からは幕末から明治時代にかけての陶磁器を中心とする遺物が大量に出土しました。(中原義史)



調査区の位置



調査区の位置

(文化8年・1811年の城下絵図と対照)



15-4 地区 中・近世遺構



15-4 地区 割石組みの井戸



15-6 地区 外堀完掘状況



15-6 地区 外堀北側の石垣